

# 事務事業評価シート

(H.29)No.	1147	(H.28)No.	1147
-----------	------	-----------	------

事務事業名	生徒指導充実推進事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
教育委員会事務局	学校教育室	中森 早苗	

会計区分	事業コード	466601
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 教育費	生徒指導充実推進事業	
項 教育総務費	(小事業名)	
目 教育振興費	生徒指導充実推進事業	

## 1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
	基本施策	1	生きる力を育む教育の推進
	施策	1	学校教育
重点プロジェクト			

## 2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)	いじめや不登校にならないうつら児童生徒の早期発見や学級状態把握のため、市内全児童生徒に、Q-U調査(学級満足度調査の心理検査)を実施し、改善の取組実施により、児童生徒の学校に対する満足度を高めま
-------------	---

事業内容

将来、社会に適応する子どもを育てるために、学級集団や学年・学校の集団づくりを通して、いじめや不登校が生まれにくい望ましい人間関係づくりの取組を進めていきます。また、支援が必要な児童生徒をはじめ、不登校や問題行動を示す児童生徒はもちろんのこと、すべての児童生徒に対して、他者理解や自己有用感を高める取組により、いじめや不登校等の未然防止を図ります。

## 3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.28年度(事業量・取組実績)		H.29年度(事業量・取組計画)		H.30年度(事業計画)	H.31年度(事業計画)	H.32年度(事業計画)
	H.28年度(決算見込)		H.29年度(作成時予算額)		H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)
主な事業の実績・計画	・学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師		・学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師		・学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師	・学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師	・学級満足度調査活用検討委員会(2回)・教育相談担当者会(3回)・生徒指導推進委員会(7回)・Q-U調査・各校研修会の講師

	H.28年度(決算見込)		H.29年度(作成時予算額)		H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)
	H.27繰越分	H.28現年分	H.28繰越分	H.29現年分			
①直接事業費		1,467千円		1,445千円	1,445千円	1,445千円	1,445千円
内訳(千円)	国・県支出金						
	地方債						
	その他( )						
	一般財源	0	1,467	0	1,445	1,445	1,445
人工数	職員		0.30人	0.32人	0.32人	0.32人	0.32人
	臨時職員等		0.01人	0.02人	0.02人	0.02人	0.02人
②概算人件費	0千円	2,267千円	0千円	2,434千円	2,434千円	2,434千円	2,434千円
①+②総事業費	0千円	3,734千円	0千円	3,879千円	3,879千円	3,879千円	3,879千円

## 4. 担当室による事務事業の点検

考察(H.28年度の取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など)

Q-U調査をもとに各学校で事例検討・共通理解を図ることで担任の抱え込みが減少し、複数の教員によるチーム対応ができました。満足度は2.4ポイント上昇し、不登校児童生徒数は20人減少しました。今後も継続して児童生徒が居心地のよい学級集団をつくっていく必要があらます。

また、第1回目調査と2回目調査の結果を比較すると、満足型の学級が15学級増加し、学級に満足している児童生徒の人数が255名増加、学級に満足をしていない児童生徒が114名減少するなど、1回目調査を踏まえて各学校、学年、教職員間で快適な教育環境の整備に取り組ましました。

## 5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】	継続(現行)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
-------	---	--------

今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)

各学校におけるQ-U調査結果の活用ができるように各学校の研修会を充実させます。学校では学年が替わる毎にクラス替えがあり、担任も替わります。学級間や学年間の教師の働きかけや取組の温度差をなくし、学校体制による児童生徒の居場所づくり、絆づくりのための取組の推進を図り、児童生徒を理解するための手立てを工夫します。また、関係機関との連携を強化するとともに、教育センターでの適応指導教室やカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置など教育相談機能を充実させていきます。加えて指導主事による学校訪問により、実態に応じて指導、助言します。毎年実施することで、居心地のよい学級集団づくりに効果をあげています。今後も継続して実施していきます。

## 6. 事務事業の取組に関する市の計画

第二次名張市子ども教育ビジョン  
ぱりっ子すくすく計画(第3次)